

猿橋  
小学校

瑛玖良

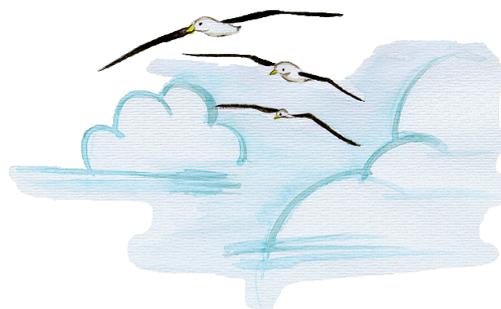
瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

## ひとつ、ステップを上がるとき

校長 磯部 裕之

3月に入った途端に時間の流れのスピードが変わったのではないかと思うほど、ここ数日の一日一日があつという間に過ぎ去っています。玄関前にできていた雪山も、もうすっかりと消えて、いよいよ本格的な春が近づいてきました。

時の流れは本当に早いもので、この便りが配付される3月19日は3学期の終業式、そして3月21日は今年度を締めくくる卒業式となります。



最近「あなたのための短歌集」という本を読みました。歌人・木下龍也さんが依頼者からメールで届くお題をもとに短歌をつくり、便箋に書き封書で届けるという形で生まれた短歌の中から100首を収録して本にしたものです。こんな1首がありました。

お題「教室を生き抜く為の短歌をください」

短歌「違いとは間違いじゃない窓ひとつひとつに別の青空がある」

まず、お題の「教室を生き抜く為の短歌」という言葉に、ドキッとしました。依頼者は中学生かな、高校生かなと思いつつも、教室が「生き抜く」くらいに苦しい場所になっているのかということに胸が痛みました。30人を超える子どもたちが一同に集う教室。一緒に1日を過ごす教室。どの子にとっても、息がしやすく、話がしやすく、安心していられる場所であってほしいと願っています。でも、中には、人知れず苦しい思いをしている子がいるかもしれないという認識を私たちは忘れてはならないということ、この「お題」と「短歌」は、私に教えてくれました。歌人・木下さんの「窓ひとつひとつに別の青空」という言葉には、人と違うことがあなたの魅力なんだという温かなメッセージが込められている気がします。

今年度も、卒業式に向けて6年生は日々の練習に真剣に取り組んでいます。練習に臨む子どもたちの表情は、真剣そのものです。また、今年度は、在校生を代表して4・5年生が卒業式に参加することになりました。どの学年も、練習に臨む姿勢や態度は本当に立派です。1～3年生も含めて、どの学年の子どもたちも、この1年間で本当に大きく成長しました。4月に向けてさらに1つステップを上がるその姿を、また、みんなで応援していきたいと思えます。

今年度、保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力のおかげで、子どもたちは安心して自分の力を伸ばすことができました。心より感謝申し上げます。

今後とも、子どもたちの成長をともに見守り支えてまいりましょう。